

大悲山磨崖仏(福島県南相馬市小高地区)参詣記

渡辺憲司

福島原発事故の大きな影響を受け、現在、避難指示解除準備区域となっている南相馬市小高地区にある大悲山磨崖仏への参詣紀行を記すとともに、取り残された文化財の意味を問い、その保護の現況を記し、我々が持続的にいかなる形で文化財を継承すべきかを述べた。

東日本大震災から2年10ヶ月、2014年1月12日に小高の磨崖仏を訪れた。約1年ぶりである。この時のことは、『時に海を見よ』(双葉社・文庫版)のあとがきで記した。

昨年の11月22日付『福島民報』に、「平安前期の土器出土 南相馬の国史跡「大悲山の石仏」年代裏付け、文化復興に期待」という見出しで、「日本三大磨崖仏の一つで国史跡である南相馬市小高区小泉の「大悲山(だいひさん)の石仏」のうち、市教委が観音堂石仏で実施した初の発掘調査で、石仏の制作年代を裏付ける平安時代前期の土器が出土した。発掘は東日本大震災で倒壊した覆屋の復旧事業に伴う調査。市は避難区域にある貴重な文化財の適切な保存を進め、文化復興に結び付けたい考えだ。」と記事が掲載された。

思い立って朝早く上野から東北新幹線で仙台へ、仙台駅から上りの常磐線。仙台駅から亘理駅まで35分。亘理からは代行バスで相馬へ約1時間。

亘理駅は城郭風の駅舎で郷土資料館が隣接している。この町の47%が津波にのみこまれ、死者・行方不明者305名。荒浜、大畑浜・吉田浜は壊滅的であった。小高い警察所の脇を通ると仮設住宅が並んでいる。かつて常磐線、宮城県側の最後の駅であった坂元駅は、津波により、線路・駅施設が流出した。バスの左手遠くに海が見え、荒涼とした整地にクレーンのついた工事車輛が点在している。

福島県側の最初の駅は、新地。津波で、プラットホームだけが残った。横転した電車の映像を記憶の方も多であろう。

モダンなガラス張りの新地役場前をバスが通過。役場前に「成人式会場」と看板がある。帰省する大人の都合にあわせ、前日に成人式をやる地方は多い。

JR相馬駅で、約1時間半の待ち合わせ。駅近くの空地にぽつんと建った床屋に行く。

話好きの床屋の女房の話。

「埼玉から小高の観音さんにね。昔は亭主と一緒に行ったもんだよ。夫婦杉があってね。放射能で立ち入り禁止になったけどね。今はあすこも日帰りが出来るんだよ。子供も授かるんだってね。石に彫ってあるから暗くて気持ち悪いような仏様だけ。古くから御利益あるってね、この辺の人はよく行ったんだ。お堂の隣に泊まるところもあったもね。もう行けないよ。亭主がひと月前に死んでさ。風呂でぼったりさ。久しぶりに店開けてみたんだけどね。成人

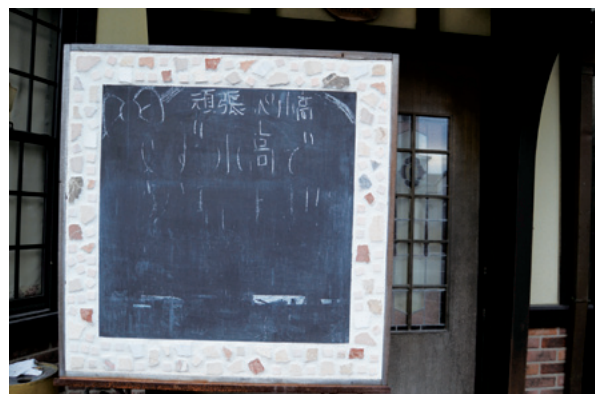
式だからね。あれ……お湯出ないね。お客さん、後で髪洗いましょうね。そこに賞状あるでしょ。孫が小学校四年の時に絵のコンクールで賞取ったのさ。内の婿さんの血だと思うね。ハイハイ。地震は大変だったよ。隣にあったビルもその隣もみんな倒れてね。揺れがおさまるまで駐車場に寝そべっていたんだよ。私の家は少し前に普請してたからもったんだね。倒れれば保証金も少しは入ったんだけどね。小高の人も保証金入るんでないの。でもね家も何も無くなったらどこにも住めないよね。ああ嫌だ嫌だ……。代行バスじゃね。原ノ町までも電車少ないしね。これじゃ駅前ついていけないよ。駅にくっついて新しい床屋があったでしょう。こっちによく来たね。まああちは若い人が行くんだよ。こっちは馴染みだけだね。あれ、雨かね……。この辺は雪降らないよ。ほとんどね。暖かいんだよ、いいトコなんだけどね。常磐線もう終わりかね……。」と……。

奥で娘さんの声。「かあさん。お客さん乗り遅れるよ。あと5分ないよ。」

「トニックたっぷりつけとくね。かゆみ消えるからね。すまないね。組合に入っているからね。釣り銭ないから500円まけとくよ。いつでもいいよ。」と女房。

駅に駆け込み、ようやく電車に間に合った。

相馬駅から原ノ町駅まで、約20分。原ノ町は南相馬市の中心、震災前、原ノ町の駅そばは駅そばキングとテレビで取り上げられ、駅弁も七種類ほど売られていた。乗車人数は2000人を越えることもあったが今は約4分の1に減少した。駅そばは駅前の店で売られているそうだが休みのようだった。駅前のタクシー乗り場には3人ほど並んでいる。ここから常磐線は広野まで休止状態。小高の大悲山へ



喫茶店の看板(筆者撮影)

はタクシーで20分ほどである。

小高地区に入ると、途端に物音がしない。まったく静かである。昨年は、立ち入り解除後、まだ日が浅いせいだったのだろうか、信号機は赤のままだったが、それでも何とか、数人の人と出会った。今回は磨崖仏まで、人に出会うことはなかった。駅前通りの交差点には、半壊した住宅が地震の大きな爪痕を語るように放置されている。クラシックでおしゃれな感じの喫茶店の前のメニュー用黑板には、白いチョークで「がんばっぺ小高」と強い文字が書かれていた。その喫茶店の前を通る。たしかに去年と同じようにその文字は書かれていたが、弱々しく消えかかっている。

小高は中世の古城跡を持つ、蔵の多い、和菓子のおいしい町であった。また近年は、隠れたラーメンのおいしい地区としても一部マニアには知られていた。

小高地区は、原発から20キロ圏内で避難指示区域となり、原発事故後、立ち入り禁止区域に指定されていた。現在は、宿泊禁止、日中の立ち入りは自由。避難指示解除準備区域である。将来の居住に向けて整備計画が立てられることになっているが、電気・水道などが未整備で住民は戻りようにも戻ることができない。

それまで一言も発しなかった運転手さんが重くゆっくり口を開いた。

「使っていない家に戻れるって、戻れるわけないさ。全部壊せばいいのさ。早く除染もできるんじゃないの。」

120号線、陸前浜街道を泉沢地区に入って、浪江町まで約5キロの辺りを山側に少し入る。

樹齢1000年を越え、45メートルもある天然記念物の大杉が目印、杉の脇の階段を上って薬師堂がある。堂内に入ると自動で電気がつく。仏たちは、保護のため、ガラス戸で仕切られ、堂内には、千羽鶴や参詣旗が置かれている。

石仏は藤原時代のもので、約2メートルを超す大きな半肉彫りの座像が中心にある。他に立像・線彫りなど10余体が刻まれている。ガラス越しではあるが、後背に彩色が施されているのがわかる。部分損傷も激しい。

大杉の裏には、小高町指定文化財の第1号である、『裏剥蓋付舟形剝抜石棺』がある。6世紀頃作られた古墳の石棺と推定されているが、この石棺とほぼ同じものが浪江町にあり、その近似性も指摘されている。

薬師堂のある大悲山一帯は大蛇伝説に基づいて、「大悲山大蛇物語公園」となっている。大蛇と琵琶法師の悲しい物語である。ここは紅葉の名所としても知られていた。整備された公園だが荒んでいた。

薬師堂から道を引き返すと、阿弥陀堂がある。ここにも石仏が彫られていたのだが、剥落していて状況をうかがうことはまったく出来ない。そばに夫婦杉もあるが、杉は台風で倒され現在一本のみである。相馬の床屋さん夫婦が参詣したのもこの夫婦杉であろう。「霊木樹齢千百余年大悲山の大杉 古くからお百度巡は特に縁結安産長寿満足に霊験あり 大悲山慈徳寺」と説明書きがある。

さらにかつて旅館として営業していた所の前を引き返すと、観音堂がある。岩窟は、間口14メートル余、奥行5メー

トル余、高さ5メートル余（観音堂前の案内板による計測）で正面上方に大きく十一面千手観音があり、観音の後背の壁面には、無数の仏（賢劫千仏）が薄肉彫りされている。

先に記したように、今は発掘調査と覆屋の修復作業中で、観音の前には、ビニールシートが敷かれ、立ち入り禁止の札が立つ。

地震での崩壊後、はじめての本格的発掘調査が始まったことは、新聞記事で紹介したが、仏は地震により自身のあり様を世間に示したと言えるのかもしれない。現地では、昨年11月22日に大悲山石仏保存修理委員会が開かれ、今年度内に覆屋の設計が終わり、来年度に施工が予定されていると云うことだ。

貞観11年(896)に、マグニチュード8以上の大地震による大津波が南相馬を襲ったことが、独立行政法人産業技術総合研究所の地質調査で明らかになっていた。それは東日本大震災以前の報告である。大悲山の石仏はおそらく貞観の大地震発生の時期とさほど変わらない時期に出来あがったのであろう。仏には歴史の教訓が刻まれていたのだろう。

大悲の石仏は、復興への道を歩み始めたことであろう。しかし、仏は信仰によって支えられるものだ。参詣人のいない仏はその魂を失う。そしてそれは人の魂をも祈りをも奪っていくのではない。

祈りは教訓である。私は、福島石仏や野仏に祈ることを忘れまいと思う。今、福島石仏たちは安らぎを与えてはくれまい。だが、小さな行動への勇気を与えてくれそうな気がする。

祈りは教訓である。私は、福島石仏や野仏に祈ることを忘れまいと思う。今、福島石仏たちは安らぎを与えてはくれまい。だが、小さな行動への勇気を与えてくれそうな気がする。

日が暮れた。海水浴と松林、そして初日の出でよく知られた村上海岸を回って原の町に戻った。海は暗く、黒く、冥い。波の音だけが繰り返す。

亙理から仙台へ。明るい電車の中では帰省した成人式帰りの華やかな声があった。(2014年1月30日 記)

渡辺憲司(わたなべ・けんじ) 1944年、北海道生まれ。立教大学名誉教授、立教新座中学・高等学校校長。ESD研究所所員。日本近世文学・文化。博士(文学)。主な近編著に『江戸遊女紀聞』(ゆまに書房)、『AN EDO ANTHOLOGY』(HAWAII PRESS) など。



ガラス越しにみた薬師堂の石仏 (筆者撮影)